

農業、食

思い語る

(上)

北関東、北海道、東北を軽やかに駆けまわる、日本共産党参院議員の紙智子さん。酪農家で、日本の農業を守る運動をすすめる農民運動全国連合会（農民連）会長を務める佐々木健三さんと対談の輪は広がって…。

佐々木 紙さんは、五道改革が農業と地域経済に山形で開かれた東北、済にどんなに深刻な打撃の根シンポジウム（日）を与えているかを改めて本共産党衆院東北ブロック事務所と党東北六県委員会主催）で農村の格差拡大と国会での論戦について報告されましたね。

採算割れ常態化 紙 はい。全国各地をまわって、農家のみなさんや自治体の方たちの話を聞き、小泉内閣の「構

WTO体制10年

参院議員 紙智子さん 農民連会長 佐々木健三さん

佐々木米価は30年前の水準に



1941年福島市生まれ。福島市で牛乳の産直をする酪農家。

をして規模を大きくしても経営は困難で、離農する農家が続いています。

世界の潮流は…

佐々木 よく日本の農業は規模が小さいからだめだといわれますが、狭い国土条件を巧みに生かして高い生産性を上げてきたのが日本の農業です。

紙 そのWTOです。昨年十二月に香港で開かれた閣僚会議では、現地に途上国やEU（ヨーロッパ連合）、アジア各国の農民、消費者団体、NGO（非政府組織）の人たちが集まり、「自由貿易」押し付け反対、自国の農業と食料を守れと要求しました。

ただだ」と語っていましたし、EUの議員さんも格差を拡大する自由貿易ではなく、各国の自主性や主権を尊重した貿易ルールをつくらないといけない、と発言していました。私たちが思っていることと同じだとうれしくなりました。

佐々木 財界は日本の農業はコスト高で非効率だと攻撃し、日本の農政もWTOを前提に自由化をすすめていて、もう日本の農業は先行きがないんじゃないかと思う人がいます。でも、世界の流れは違っています。

政権のもとで格差拡大がすすみ、農村はどうなっていくんだろう、という声が大きくなっています。新自由主義の政治、「構造改革」路線が農村を重く覆っているのを感じます。

田んぼや畑で働き、仕事が終わると、おふろに入り、ごはんを食べる…。今ではそんな風景はなかなか見られません。借金

紙 本来、農業というのは生産の喜びを感じられる仕事ですよ。私も北海道の農家の生まれで、農作業を手伝って育ちました。家族みんな

私も参加し、各国の議員やNGOの方たちと懇談しました。途上国の議員さんは「WTOはわれわれに貧困と格差を広げ

WTOの農業協定が動き出して十年ですが、日本の農民と消費者は農産物の輸入急増と価格の暴落、農業が残留した農産物や遺伝子組み換え食品の増大など、深刻な事態にさらされています。このWTO体制に反対する運動、潮流が世界各地で広がっているんです。

紙「構造改革」で深刻な打撃



1955年札幌市生まれ。農林水産委員、予算委員。

紙 紙 本来、農業というのは生産の喜びを感じられる仕事ですよ。私も北海道の農家の生まれで、農作業を手伝って育ちました。家族みんな

このWTO体制に反対する運動、潮流が世界各地で広がっているんです。